



その他

6-1 学会等の参加

(1) 第61回日本人間ドック学会学術大会

年 月 日	演 題 題 目
令和2年11月26日から 令和2年12月11日まで Web開催	胸部X線検査におけるデュアルエネルギーサブトラクションの有用性の検討

発表者：橋口勝、祖父江功、森則久、山中暁弘、金井沙耶香、藤牧爽花、平山幹生
伊藤和幸、矢野孝

【はじめに】

当センターは平成26年に胸部X線撮影に「デュアルエネルギーサブトラクション（以下DEという。）」を導入した。今回、胸部X線検査におけるDEの有用性についてDE導入前後を比較し、検討した。

【対象】

当センターの人間ドックで、胸部X線検査を受けたDE導入前3年間の22,000人と導入後3年間の26,276人とした。

【方法】

DE導入前、導入後の要精検率、がん発見率を比較検討した。また、読影業務に携わる医師5名、及び結果説明に携わる医師5名へDEに関するアンケートを実施し、有用性を検討した。

【結果】

要精検率は、DE導入前は1.92%であったが、導入後は2.34%と高くなり、がん発見率も導入前の0.03%に対し、導入後は0.08%（ $P < 0.05$ ）と上昇した。読影業務に携わる医師へのアンケートでは、「DEが読影補助となっていますか」の問いには全員が「役立つ」と回答した。また、「読影時、DEを利用していますか」の問いに対しては、4名は「常に利用している」と回答した。結果説明に携わる医師へのアンケートでは、「受診者への画像説明時にDEは有用ですか」の問いに対して、4名は「役立っている」と回答した。

【考察】

DEにより単純画像において問題となっていた肋骨などの障害陰影の分離が可能となることから、病巣陰影がより描出されるため要精検率が高くなり、がん発見率も上昇したと考えられる。また、受診者への説明に際しても病巣陰影をよりよく示すことができ、有用であると考えられる。

【結語】

DEは胸部X線検査において精度向上、読影支援、受診者への画像説明の点で有用であり、今後も胸部X線検査に有用なアプリケーションの導入を検討していきたいと思う。

6-2 会議活動

【健診担当者会議】

ア 目的・内容：健診事業・健康づくり事業にかかる各ミーティング（臨床検査技師ミーティング、診療放射線技師ミーティング、看護師ミーティング、健康づくり担当者ミーティング）を統括し、健診事業の円滑な実施に資する。

イ 開催：原則第1水曜日 午後3時30分～

ウ 構成：8名

【医療安全担当者会議】

ア 目的・内容：医療の質の向上と安全管理及び院内感染対策を総合的に企画・実施する。

イ 開催：原則第2水曜日 午後3時30分～

ウ 構成：7名

【サービス向上担当者会議】

ア 目的・内容：施設利用者に対するサービスの改善と質の向上の推進を図る。

イ 開催：原則隔週金曜日 午後3時30分～

ウ 構成：6名

【事務会議】

ア 目的・内容：事務管理・施設運営に係る事項を協議し、効率的な法人運営及び事務執行に資する。

イ 開催：原則第3水曜日 午後3時30分～

ウ 構成：4名

【年報編集委員会】

ア 目的・内容：事業団の年報の編集・作成を行う。

イ 開催：年間2回、その他担当ごと編集作業を実施

ウ 構成：6名

【機関誌編集委員会】

ア 目的・内容：事業団の機関紙の編集・作成を行う。

令和2年度は「vol.10 肩こりに悩んでいるあなたへ」、「vol.11 その生活習慣続けて大丈夫？」を作成。

イ 開催：随時

ウ 構成：5名



機関誌 新発健vol.10、vol11



医療安全研修（8月）



サービス向上の取り組み
（クリスマスの装飾）

6-3 新型コロナウイルス感染症の影響

(1) 新型コロナウイルス感染症に係る行政措置等と事業団の対応

行政措置等	期間	事業団の対応	期間
春日井市新型コロナウイルス感染症対策本部会議における市及び外郭団体が主催（共催含む）の市民が参加するイベント、講座、会議等の原則中止の決定	令和2年2月27日 ～ 令和2年3月15日	総合保健医療センター及び保健センターで健康づくり事業を休止	令和2年2月28日 ～ 令和2年6月30日
	※緊急事態宣言の発出に伴い令和2年6月30日まで措置を延長	保健センターで貸館利用者に利用自粛を要請	令和2年3月3日 ～ 令和2年4月8日
		休日・平日夜間急病診療所でインフルエンザ検査等の口腔粘膜検査を原則禁止	令和2年3月13日 ～
愛知県独自の新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出	令和2年4月10日 ～ 令和2年4月15日	保健センターで貸館事業を休止	令和2年4月9日 ～ 令和2年6月19日
		総合保健医療センターの人間ドックで肺機能検査を休止	令和2年4月13日 ～
愛知県を含む地域における新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出	令和2年4月16日 ～ 令和2年5月31日	総合保健医療センターで健診事業を休止	令和2年4月15日 ～ 令和2年5月31日
		総合保健医療センターの健診事業の受付開始時間を密回避のため8時30分から8時15分に変更	令和2年6月1日 ～
		休日・平日夜間急病診療所で新型コロナウイルス抗原検査を実施	令和2年12月30日 ～ 令和3年1月3日
愛知県を含む地域における新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言の発出	令和3年1月14日 ～ 令和3年2月28日	総合保健医療センター及び保健センターで健康づくり事業を休止	令和3年1月16日 ～ 令和3年2月28日
		保健センターで貸館事業を休止	令和3年1月16日 ～ 令和3年2月22日
		保健センターで貸館事業を午後8時まで短縮し実施	令和3年2月23日 ～ 令和3年2月28日

(2) 休日・平日夜間急病診療への影響

【患者数3年推移】 (人)

年度	H30年		R1年		R2年	
	年間計	前年比	年間計	前年比	年間計	前年比
内科	6,835	106.3%	5,707	83.5%	1,535	26.9%
小児科	5,214	97.4%	4,692	90.0%	866	18.5%
外科	1,304	92.3%	1,412	108.3%	820	58.1%
歯科	206	82.4%	249	120.9%	132	53.0%
患者数計	13,559	100.8%	12,060	88.9%	3,353	27.8%

【インフルエンザ検査状況3年推移】 (人)

年度	H30年		R1年		R2年	
	年間計	前年比	年間計	前年比	年間計	前年比
検査数	6,390	110.8%	4,955	77.5%	55	1.1%
陽性者計	3,451	141.5%	1,862	54.0%	0	0.0%
A型陽性	3,413	292.7%	1,652	48.4%	0	0.0%
B型陽性	38	3.0%	209	550.0%	0	0.0%
A型B型	0	-	1	-	0	-

【令和2年度連休期間検査実施状況】

(年末年始の検査状況)

	新型コロナウイルス		インフルエンザ	
	検査数	陽性者計	検査数	陽性者計
12月30日(水)	15	7	6	0
12月31日(木)	6	1	6	0
1月1日(祝)	22	1	20	0
1月2日(土)	15	2	14	0
1月3日(日)	5	1	4	0
計	63	12	50	0

休日・平日夜間急病診療は、新型コロナウイルス感染拡大の影響による医療機関の受診控えから患者数が大きく減少し、令和元年度の27.8%だった。特に科目別では小児科の患者数の減少は前年比で18.5%と顕著であった。

令和2年3月より診療所内感染予防のため口腔粘液検査を原則中止したことで検査件数が大幅に減ったことや、感染症対策がインフルエンザ予防につながり全国的に患者数が激減したことから、インフルエンザ陽性者は確認されなかった。

新型コロナウイルスの検査については3日以上休日が続く連休期間に限定して抗原検査を実施した。患者自身が鼻腔ぬぐい液を採取する形式で行い、発熱患者を担当する医師の固定、検体採取エリア、コロナ陽性者専用動線の切り分け等感染対策を実施して行った。また、検体共用できることからインフルエンザ検査も同時に行った。

(2) 健診事業への影響

【受診者数3年推移】

(人)

年度	H30年		R1年		R2年	
	受診者数	対前年比	受診者数	対前年比	受診者数	対前年比
人間ドック	9,631	100.1%	9,476	98.4%	7,395	78.0%
脳ドック	1,007	89.0%	857	85.1%	1,002	116.9%
基本健診	3,441	105.2%	3,411	99.1%	3,002	88.0%
特定健診	521	103.4%	493	94.6%	420	85.2%
生活習慣病 予防健診	11	137.5%	8	72.7%	5	62.5%
ヤング健診	454	65.3%	473	104.2%	294	62.2%
乳がん検査	2,749	100.6%	2,614	95.1%	2,094	80.1%
子宮がん検査	2,177	108.6%	2,082	95.6%	1,547	74.3%

健診事業は、新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言の発出に伴い令和2年4月15日から5月31日まで、乳がん検査、子宮がん検査を除く全ての健診事業を休止した。また、人間ドックの肺機能検査は令和3年4月13日から中止している。

健診事業休止の影響に加え、新型コロナウイルス感染拡大による受診控えもあり、人間ドックは受診者数が前年比78.0%と減少し、休止しなかった乳がん検査、子宮がん検査についても前年から2割程度の受診者減となった。

脳ドックについては前年度より受診者数が増加したが、これは50歳の春日井市民に対し、脳ドック受診勧奨のはがきを送付したことによる効果が大きく、50歳の受診者数が飛躍的に伸びたことが影響している。

(3) 健康づくり事業への影響

【総合保健医療センター】

年度	H30年		R1年		R2年	
	受講者数	前年比	受講者数	前年比	受講者数	前年比
健康マイスター養成講座	33	110.0%	32	97.0%	32	100.0%
健康づくり講座	12,202	128.9%	13,979	114.6%	2,544	18.2%
講師派遣事業	182	82.0%	166	91.2%	32	19.3%

【保健センター】

年度	H30年		R1年		R2年	
	受講者数	前年比	受講者数	前年比	受講者数	前年比
体力測定 (効果測定含む)	834	100.1%	749	89.8%	339	45.3%
個別指導	193	88.1%	165	85.5%	683	413.9%
事後支援 講習会	26,493	106.9%	25,304	95.5%	12,900	51.0%
健康づくり 講座	13,383	94.9%	11,583	86.6%	3,197	27.6%
講師派遣事業	278	129.9%	278	100.0%	100	36.0%

健康づくり事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため総合保健医療センター及び保健センターで令和3年6月30日まで休止し*、7月1日から再開した。1月16日以降も緊急事態宣言の発出に伴い再び休止したが、3月1日から再開した。保健センターでは講座の休止期間中、事後支援講習会参加者に電話による個別指導を実施しており、令和2年度の個別指導受講者数は令和元年度の413.9%と大幅に増加している。

総合保健医療センターで行った健康づくり講座は、各教室の定員を収容人数の半数以下に減らし、受付での検温、手指消毒を行い実施した。お気軽運動教室及び単体体操教室では受講者の誕生日によって参加できる日を決め、受講者情報をバーコード管理にすることで受付を円滑に行い、受講人数を制限することで密を回避し実施した。また、講座時間の短縮、次に使用する講座と間隔をあけることで換気や消毒作業を徹底した。

保健センターで行った健康づくり講座及び事後支援講習会では、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、各教室の参加定員と開催時間を半減し、同内容の講座を2回実施することで密を回避して実施した。また7月から9月までの間、マスク着用により運動強度が増すウォーキング及びエアロビクス系の種目は、健康づくり講座は中止とし、事後支援講習会は1回あたりの時間を短縮して実施した。感染対策として用具の貸し出しを中止したため、用具を貸し出して実施している講座は中止し、スロートレーニングなど用具を使用しない講座を代わりに実施した。

* 6月10日の「そらまめ教室」は運動を伴わない座学のための講座のため実施した。

(4) 貸館事業への影響

年度	H30年		R1年		R2年	
	人数	対前年比	人数	対前年比	人数	対前年比
体育室兼 運動訓練室	42,853	98.4%	39,046	91.1%	20,406	52.3%
大会議室	833	219.2%	1,081	129.8%	317	29.3%
和室	1,452	86.2%	940	64.7%	31	3.3%
料理教室	896	97.4%	765	85.4%	327	42.8%
人数計	46,034	98.9%	41,832	90.9%	21,081	50.4%

貸館事業は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、令和2年4月9日から6月19日まで、及び令和3年1月16日から2月22日まで全面休止した。このため貸館利用者数は前年比で50.4%減少した。

感染防止対策として、施設の入口3か所に手指消毒薬を設置し、空調設備と窓開放による常時換気、パーテーション設置、入室者数の制限を行った。貸館利用者には、感染防止のための利用時留意事項をチラシにし配布した。

また、従来予約時に利用希望者が来館し行っていた抽選会については、利用希望者の来館を不要とし、抽選結果を電話で伝える方法に変更した。

年報作成委員会

牧 野 誠 司
掛 川 悌 示
竹 田 麻 子
勝 田 香 織
越 村 真奈実
藤 牧 爽 花
成 田 晃 久

令和2年度版 公益財団法人春日井市健康管理事業団年報

令和4年1月発行

編集・発行 公益財団法人春日井市健康管理事業団
〒486-0804
春日井市鷹来町1丁目1番地1
TEL 0568-84-3060
FAX 0568-84-3682